

第6回新しい公共島根県運営委員会

日時 平成24年5月25日（金）13:15～15:00

場所 県職員会館健康教育室

■開会

■新しい公共島根県運営委員会の役員改選、運営委員の交代及び設置要綱の改正について

- ・ 新任運営委員挨拶：飯南町 烏屋ケ原委員
- ・ 設置要綱改正：アドバイザー設置条項追加
- ・ アドバイザー：井上定彦氏就任
- ・ 委員長：互選により毎熊委員が就任
- ・ 副委員長：委員長指名により井ノ上委員が就任

■委員長挨拶

- ・ 行政学が専門で日本行政学会に所属しており、先週学会に参加したが、その場においてNPOのアカウンタビリティをどうするのがテーマとして取り上げられたことから、改めてNPOももう少しではないかという気がしている。
- ・ 2年前のフォーラム実行委員会の場で、NPOのアカウンタビリティを何とかしなければと発言したが、そのときから状況がどのくらい変わったかについて関心を持っている。そのときに、いろいろな議論がある中で、「社会的バランスシート」という言葉、つまり財務状況でよくするだけではなく、いろいろな社会的な責任を果たすということがNPOに求められて、それが例えば会計のあり方に盛り込まれるようになってきたとか、あるいはそれを評価する社会的監査ということが今は世界的に注目を集めている。ある意味で殺伐とした状況になりかねないという話も聞いている。今思い起こすと「三セク」というのが30年くらい前にはやり、80年代に「民間委託」といわれ、ついには必然という話になった。
- ・ 「新しい公共」という言葉が盛んになり、NPOも随分注目を集めてきており、非常に現実味を帯びてきているのではないかと思う。
- ・ この委員会もそのような緊張感を持ってやっていければと思う。
- ・ よろしく願います。

■委員長代理挨拶

- ・ 「新しい公共」の取り組みが始まり、関係者の皆さんが本当に頭を抱えながらみんなで手を取りながら進めていらっしゃる状況だと思う。
- ・ いろいろな人たちが関わりあって、マルチステークホルダー、協議体を育てていかなければならない、またそれが25年度以降につながっていかないといけない。
- ・ 新しい公共運営委員会が何か力になれるということであれば、都合のつく者が出かけるなど、私たちにできることをしっかりと考え、実行していきたいと思う。

■報告事項1について

「新しい公共の場づくりのためのモデル事業の実施状況について」

- ・事務局より説明
- ・監査同行の運営委員より補足説明
- ・了承

<主な意見、補足説明>

(隠岐ジオパーク戦略会議の件について)

- ・スマートフォンのアプリ制作について、ほぼ完成段階で5月末には使用開始可能とのこと。当面 Android 機種のみ対応だが、今年度には iPhone 対応にも取り組むとのこと。完成すれば、島の島前・島後の観光スポットにおいてスマートフォンによるガイドが可能となる。
- ・有償ガイドの養成研修の方法、認定方法について教えてほしい。(→有償ガイドの認定について、当初は試験実施を検討していたとのことだが、今後の課題となっている。)
- ・研修は実施されたのか。(→研修は資料のもの以外でも、例えば、AEDに関する救命救急の資格を持っているとか、いくつかの資格を積み上げた方を今回認定したということ。だがまだきちんと確立していない段階。)
- ・スマートフォン対応の寄附つきソーシャルアプリというのはどういう仕組みなのか教えてほしい。(→ Android マーケットに登録をして、そこでダウンロードをするのを確認をするというシステムになっていると聞いている。地域ネットを使っただけの各場所の連携や音声組み込みについても検討していくとのこと。また、アプリの運営について、300円でダウンロードして何箇所かのスポットに行くとき位置情報を確認し、認定マークが登録され、スタンプラリーという仕組みの中で達成状況により黒曜石等のグッズがもらえるとのこと。)

(テーマコミュニティとエリアコミュニティの融合による新しい支え合いの仕組みづくり事業)

- ・スマイルデスクという事務所を拠点に様々な活動をなさっている。
- ・大きく分けて二つの事業があり、まず新たな仕組みを構築する事業、それから活動・組織の基盤を整備する事業というもの。
- ・地産地消の取り組みの一つとして、保育所の方で出す給食をある地区の方から提供してもらい、今日ある食材からメニューを作るという流れだと伺った。
- ・野菜に寄附を付けること、手数料のことなど、収入につながるような仕組みを考えながら進めているというところ。
- ・活動・組織基盤整備についての事業としては、森の健康診断士の育成、レジ袋の削減による収入による基金設立がある。育てた健康診断士をどのように活用していくのかについては今後の課題。
- ・エリアコミュニティ、地域での問題の掘り起こし、それをどうやってNPOやいろいろな活動団体で解決していくのかという、根本的なところに対する仕組みづくりがまだ見えていないところ。

(海士町ソフトウェア創出推進協議会の件について)

- 課題として、島基準の不明確さがある。例えば島内にある旅館の女将さんを集めて、まず、おもてなしの部分で、島で共通する島基準を作りましょうということで講師を呼んで会議を開催しているが、まだ統一したものが見えるようなかたちになっていない。5 箇条とか目標を張り出すなど島基準を明確にしてほしいという話をしたところ。
- 地域通貨ハーンの普及が遅れているが、ほぼ島内ではどこでも使えるようになっており、記念品、お土産として買っていただくこともあるとのこと。
- 事務局の人手が足りないのではないか。
- 様々な事業が関係していることから、きちんとすみ分け、区分けをしないといけない。
- ハーンについて、何かプレミアムがつくのか。期限は切っていないのか。海士町内ではハーンしか使えないという決まりを作るなりしないと、使わない。(→今年度シンポジウムなどを行い仕組みを検討していくことになっている。)
- 島基準について、利用客からのアンケートとか、フィードバックみたいな方法はなかったのか。例えばみしまやさんでやっておられる「応対がいい」とか「ちょっとこれは」とか、今、Web 上で公開もされている例がある。利用者の方の意見のフィードバックが簡単にできるような仕組みがあった方がいいのではないかと思う。

(全体について)

- この事業の採択要件でもある、2事業体以上の協議体であること、及び、5 団体程度の会議体というところがあったと思う。単体のようなところで事業を進めていくのは楽で、協議体、会議体で本当にやろうとすると事業はしんどいと思う。この点について資料には出てきてない感じがするがいかがか。(→ステークホルダーが多い団体については支援が必要になってくると考える。また、海士町の案件について、将来的に観光協会の法人化を目指しているが遅れているとのことで危惧もある。またジオパークの件についても、島前と島後が民間で連携をするという点で意義深く、良い方向に進んでいると思われる。さくらおろちの件についても、いくつかの団体を結びつける接着剤的な役割を担って取り組んでいるとの印象。)
- 震災関係についてはどのような状況か。時が経るごとに関心が薄れてくるという面がある中で、二つの協議会の中でどのようにそれを解決していこうとしていらっしゃるのかが知りたい。(→出雲の事業では、様々な事業を実施され、話し合いに集まる方々の人数も増えてきている。今後も何かのかたちとして残そうということで、現在様々な検討を行っている。松江の事業では当初意見の相違もあったようだが、徐々にいい方向に向かってきている模様。松江市も積極的に関わってきていただいている状況もある。今後については、市の地域防災計画の見直しが行われるということで、この団体が今後こういったような役割を担えるのかといったようなことも検討されている。)

- このようなかたちで、いわば断片的な情報で議論するというのもいずれあると思うので、別のかたちで検証してみたり、アドバイスしたり、されたりみたいなことは必要ないか。
- 団体の方々は、実はいろいろと悩みを抱えておられて、それを相談されたというところもあったので、つなげていけるようなことはつなげていきたいと考えている。
- 引き続き県や市町村等の助成制度を見つけることについても支援していきたい。
- 秋にはもう一度こういったような状況かについて再度確認をさせていただき、10月の委員会の中ではなかなかうまく伝わらない部分もあるかと思うので、また方法は検討するとしてそのような機会について検討したい。
- 皆さんからの要請があれば中間報告会みたいな形で、モデル事業実施団体の方にきていただくことも考えられる。
- 事業が24年度の終わったときに協議体が残っていることが大事というモデル事業ですので、協議体の会議を見にいていただけるといいなということを感じた。
- 協働研修というのは今年も事業にあるのか。(→モデル事業については現段階では予定はない。)

■協議事項1について

「平成23年度新しい公共支援事業の実績報告及び監査結果報告について」

- 事務局より説明
- 監査チーム代表（三島運営委員）より監査報告
（関係する帳票、証拠書類の閲覧を行った結果、細かい指摘事項等はあったが、特に問題となる点等はなかった旨報告）
- 了承

<主な意見>

- 「監査の実施期間」という表現は「監査の対象期間」としてはどうか。
（→そのように修正）

■その他事項について

「地域別いきいき活動支援ネットワークづくり事業の進捗状況、寄附等に関する事業「県民いきいき活動を応援するロゴマーク及びキャッチフレーズ」の応募状況について」

- 事務局より説明
- 了承

<主な意見>

- 県民いきいき活動を応援するロゴマーク及びキャッチフレーズ募集について、ちらし・ポスターを配布しているということだが、たくさんの県民の皆さんの目に触れるようにしてほしい。
- 応募資格について、県内者限定か否か。(→限定していない)